

新型コロナウイルス感染症の関係で小学校が休校になった場合には・・・

そろそろ梅雨入りの季節になりますが、お子様の体調はいかがでしょう。新型コロナウイルス感染症の初期症状は、風邪の症状とも似ているとのことですので、お子様の体調が悪い場合には、慎重に対応していただきますようお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の関係で、学校が早帰りや休校になった場合ですが、該当の小学校の児童は、学校が再開するまでは預からないようにとの指示が前橋市からありますのでご承知おきください。なお、その場合の休所日分の保育料は、日割り計算により、翌月分の利用料から差し引かせていただきます。

「ご意見箱」をご活用いただきありがとうございました。

月日は不明ですが、「ご意見箱」の中に次のようなご意見をいただきました。

車の乗り降り、宿題終了時の待機中、おやつ等のルールを徹底してほしい。指導員によってということが違うと子供がとまどってしまうので。

支援員によって児童への指導が違ってしまおうというのは、曜日によってメンバーが違ってくる私たち職員にとっても大きな課題です。そこで、職員間では「連絡ノート」を利用して共通理解に努めていますが、まだまだ十分ではないようです。

上記のご意見についてですが、「車の乗り降り」については、すでに「**お迎えの車に乗る時の約束**」を定めて、児童に指導するとともに、部屋に掲示したり車内で確認できるようにしたりしています。

一方、宿題やおやつ、遊びやお迎え時のことなどについては、職員で相談してルールを定めました。そのルールは「**明和児童クラブの約束**」として児童に指導するとともに、部屋に掲示もしました。そして、その約束を徹底できるよう支援員同士で確認しました。

ところで、子どもには同じ言葉で話しても、表情や語調によって、その伝わり方は全く違ってしまふのが普通です。（詳しくは今回の「子育てのあれこれ」をご覧ください）マスクで顔半分が隠れてしまっている状況では、かなり難しい部分はありますが、できるだけ同じように伝わるように、支援員一同努めてまいります。また、今後も「ご意見箱」をぜひご活用ください。

その他の連絡等

1. 「おそうじの日」を設けます。

それぞれの児童が、ロッカーの中の荷物整理などをする時間がなかなかとれないので、月に一回、「おそうじの日」を設けることにしました。

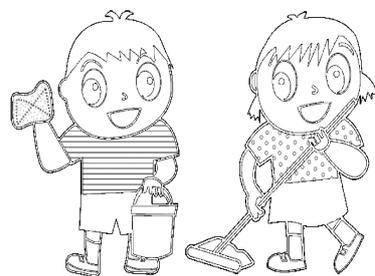
6月は、16日（水）に、7月は、15日（木）に予定しています。

2. 第1回避難訓練を実施します。

6月23日（水）の16時30分～17時10分の予定で、今年度第1回の避難訓練を計画しています。場合によってはお迎えの時刻と重なってしまいお待ちいただく場合もありますが、お急ぎの際には、遠慮なくお声がけください。なお、雨天の場合は24日（木）に、その日も雨の場合は25日（金）にと順延していく予定です。

3. 「夏休みの利用」について

「夏休みの利用」について、案内や希望に関する書類を6月の中旬～下旬に発送する予定です。なお、宅配弁当については業者と交渉中ですが、食数が少ないと、宅配が無理な場合もあるとのこと。他の業者もあっていますが、値段が高くなったり、最悪の場合には、宅配弁当はなしになる可能性もあります。宅配弁当の希望者数により状況が変わりますので、後ほど、ご希望をお聞かせいただくことになるとお思いますのでよろしくお願ひします。



子育てのあれこれ No.12

今年度も「子育てのあれこれ」を続けて時々掲載させていただきます。以前のもの（ホームページに掲載）との関連で書かせていただくことがあるので、続きナンバーで掲載します。少しでも子育ての参考にしていただければありがたいです。ただし、紹介させていただく理論や対応などはあくまでも理想なので、そのようにはできなくて当たり前だととらえていただくのがよいと思います。

今回は、心理学でも有名な理論の一つでもある「メラビアンの法則」について、事例とともに、紹介させていただきたいと思います。

「メラビアンの法則」とは

アメリカの心理学者のメラビアンが、実験によって検証した認知の理論で、ノンバーバルコミュニケーション（言葉によらないコミュニケーション）が注目されるきっかけにもなった理論です。

メラビアンの法則を簡単に言えば、人間が相手に何か伝えようとした場合に、「表情」から認知できることが55%、「音声」から認知できることが38%、「言語」から認知できることが7%だという法則です。

日本では古来から、難しい話やデリケートな内容の話などは、「膝をつき合わせて」と言われてきております。このことは、日本人の昔からの知恵であるとともに、メラビアンの法則とも一致するところではあります。

それでは、メラビアンの法則について事例で考えてみたいと思います。

事例①

小学校6年生のA君は、ある土曜日に、友達の家遊びに行き、楽しい時間を過ごしていましたが、母親と約束してあった帰宅時刻近くになって、遊びに新しい友達が増えたので、**帰宅時刻を遅らせたい**と思いました。

そこで、緊急の時に仕事中の母親にメールで知らせられるようにと買ってもらったばかりのケータイを使って、**母親あてに次のようにメールを送りました。**

「〇〇君と〇〇君も遊びにきたので、あと1時間ぐらい遊んでから

帰りたいんだけど、**それでもいい？**（A）」

そのメールに対しての母親の返信は次のとおりでした。

「好きにしたら。（母）」

さて、A君はこの後どうしたらいいのでしょうか？



上の事例では、「好きにしたら。（母）」というメールでは、メラビアンの法則でいうと**言語からの認知**になるので、7%しか、母親の意図は伝わらないことになってしまいます。もし、A君がメールではなくて、**電話で直接話をしたとしたら、音声からの認知**（38%）も加わって、合計45%になります。音声に加わることによって、母親の声色や語調から、母親の気持ちが伝わってくるからです。それでも、母親の表情が見えないので100%にはなりません。

もしも、母親がメールで返信したときに、とても険しい表情で、怒りながら、メールを打っていた場合、A君が、言葉どおりに好きにしまい1時間ぐらい遊んでから帰ったら、A君はその後、大変なことになるかも知れません。

事例②

小学校4年生のAさんは、5歳からピアノ教室に通い続けていましたが、最近になって、学校の宿題や他の習い事もあって、ピアノの練習を負担に感じるようになり、ある日曜日に、両親に思い切って「ピアノはもうやめたいのだけ」と切り出しました。

母親は、理由をよく聞いた後で、「勉強も大切だからピアノをやめてもいいんじゃないの。」と答え、父親も、「Aがそれがいいと思うのなら、ピアノをやめていいんじゃないかな」と答えました。

しかし、Aさんは、その後、結局、ピアノを続けることにして、そのことを両親に伝えました。Aさんはなぜ、ピアノを続けることにしたと思いますか？

Aさんは、母親からも父親からも、言葉では、「ピアノをやめてもいい」と言われました。しかし、それは、メラビアンの法則でいうと7%の認知でしかありません。きっと、「やめてもいい」と答えたときの両親の語調がきつかったり（メラビアンの法則の38%）、表情が険しかったり（メラビアンの法則の55%）したために、Aさんは、両親の心の内を読み取って判断したのだと思います。

つまり、Aさんにとって、両親は、**言葉ではやめてもいいと言っているが、声色や顔の表情では、やめてはダメと言っていた**のだと思われます。

子どもは、親や教師などの大人たちの顔の表情や語調にとっても敏感です。ですから、大人たちは、子どもの言葉どおりに受け取るだけでなく、本当の気持ちはどうなのかを思っ

